

# 災害から身を守るために

vol.1

「自助・共助・公助の3段階を忘れずに」



市では、市民の皆さんへ「防災」についてシリーズでお知らせしていきます。

第一回目となる今回は、「自助・共助・公助の3段階を忘れずに」と題して、災害時の基本的な心構えなどについてお知らせします。

大地震や大津波、大洪水などが発生した場合に、災害の規模が大きくなればなるほど、自分たちの生命や財産を守るためには「いざという時どうするか」という個々人の普段からの心構えが一番大切になります。防災の基本は、「自分の命は自分で守る、自分の家族は自分たちで守る、自分の地域はみんなで守る」ということです。

災害時における救助や救出に関するキーワードとして、「自助」「共助」「公助」という重要な三つの段階が

あります。

「自助」「共助」「公助」とは？

第一段階は、自分や家族の安全確認・救助を行う「自助」の段階で、第二段階は、一次的な災害を逃れた人たちが、向こう三軒両隣、自主防

災組織などがお互いに協力し合っ  
て、救出を求めている人を助ける  
「共助」の段階、そして、第三段階  
は、消防、警察、自衛隊、地方自治  
体などが行う救助・救護を待つ「公  
助」の段階となり、時間が経過する  
につれ、心構えや取り組みを変化さ  
せる必要があります。

皆さんの記憶にも新しい阪神・淡  
路大震災の際、神戸市内では、震度  
七の激震により、倒壊した家屋の下  
敷きになった人が約三万五千人、地  
震発生直後の火災などを含め、死  
者・負傷者を合わせ一万九千二百三  
十九人となる甚大な被害を被りまし  
たが、左の囲みのとおり、災害直後  
の救出活動や消火活動など、近隣住  
民による活動が、被害の拡大を防ぐ  
結果となっています。

## ●地震後における 救助活動の実態(神戸市の状況)

### ○救助活動

- ・消防隊による救助者数  
1,892人
- ・消防団による救助者数  
950人(生存率は約88%)
- ・近隣住民による救助者数  
16,000人(生存率は約85%)

※救助活動を行った市民は21%で、特に30代から50代の男性は3人に1人が救助活動を行っている。  
(神戸市「阪神・淡路大震災教訓情報資料集：国土庁」)

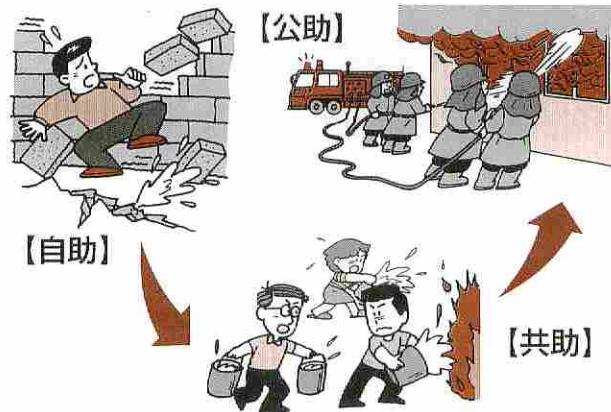
### ○消火活動

- ・市内で発生した火災現場110箇所のうち、74箇所で住民が消火活動を行った。  
(火元で焼け止まった火災は、住民による消火活動率が高く、延焼を防止した)  
(「阪神・淡路大震災の記録：消防庁」)



自らの「はじめの一歩」が大切

災害発生時においては、公的機関などが対応できる「救助・救出」ま  
では、時間的な制約があることを  
念頭に置いて、「公助」だけに期待  
するのではなく、「自助」「共助」  
「公助」を組み合わせた防災活動を  
進めることが大切です。



次回は「いざという時に：地震編」と題して、地震の時に身を守るための行動などについてお知らせします。  
問合せ先  
市総務課防災交通安全係  
(22) 6600内線221